

登録No.
登録名
催吐性リスク
適応疾患
投与スケジュール

G-008
Ramucirumab療法
最小リスク
肝細胞癌

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	マリン酸カルシウム 生食	5mg/body 50mL/body		d1	d.i.v.	30min	
Rp.2	ラムシルマブ 生食	8mg/kg 250mL/body		d1	d.i.v.	初回60min (忍容性良好なら2回 目以降30minでも 可)	ブドウ糖との混注不可 ワンショット静注禁 0.2又は0.22 μmの蛋白透過性のフィルター使用
Rp.3	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	全開	

1クルールの期間
その他（副作用・PS規定等）

2週間

投与基準： ECOG PS：0～1、好中球≥1000/ μ L、Hb≥9.0g/dL、血小板≥7.5万/ μ L、T-Bil≤1.5×ULN
AST/ALT≤5×ULN、タンパク尿：1+以下(2+以上の場合、定量検査で2g未満であれば投与可)
Cor≥60mL/min、INR≤1.5及びAPTTがULN+5秒以下
低用量の抗凝固療法を予防用量で受けている患者はINR≤1.5及びAPTTがULN+5秒以下
肝細胞癌： Child-Pugh A、AFP≥400ng/mL
投与量の調整： 有害事象に応じて、8mg/kg→6mg/kg→5mg/kgへ減量
副作用： 高血圧、蛋白尿、出血、インフュージョンリアクション、血栓塞栓症、消化管穿孔、創傷治癒遅延